

サポートが高覚醒状態下での課題遂行者の心理・行動に及ぼす影響

井口 恵梨華

災害や突発的な事件のような緊急事態下では生命に関わるリスクが発生するが、生存のためには迅速かつ適切な行動を取らなければならない。緊急事態において、人は慣れ親しんだ人物と一緒にいることで不安を軽減できる。そのため、緊急事態に親しい他者と一緒にいることは冷静な行動をする手助けとなる可能性がある。本研究は、他者の存在が課題遂行者の課題成績や心理状態に及ぼす影響を検討したものである。

実験 1 の目的は、高覚醒状態下においても社会的促進が作用し、課題遂行が促進されて正答率が上昇し、ワークロード得点が減少するか、また、他者の存在が感情に作用し、フラストレーションが軽減されるかを検証することであった。課題は、緊急事態に柔軟な思考が求められることを考慮して創造的思考が必要な RAT 日本語版を用いた。条件として、人数 (単独・複数) と覚醒状態 (通常・高覚醒) の 2 要因を設け、課題成績と、NASA-TLX の総合的負荷 (WWL) と下位尺度 6 項目の得点を測定した。

結果、課題の正答率は高覚醒条件の方が通常条件より低く、課題のミス率は単独条件より複数条件で高かった。主観指標は、WWL・タイムプレッシャー・フラストレーションの項目において、高覚醒条件の方が通常条件より負荷が高かった。知覚的要求得点は、複数条件において高覚醒条件より単独条件で得点が高かった。結果から実験の操作が適切であったこと、課題の難易度が高かったためにミス率において抑制が起こり、他者の存在によって課題にかかる注意が拡散されたことがわかった。したがって、他者はただ存在するだけではあまり影響を与えず、課題遂行者と何らかの関わりが必要であると示唆された。しかし、今まであまり検討されてこなかった高覚醒状態においても、社会的促進が生じる余地があったと示すことができた。

実験 2 では、より現実場面に近づけるために、他者からの働きかけとしてソーシャルサポートをとりあげた。目的は、高覚醒状態下においても先行研究と同様に、情緒的サポートは肯定的感情を高め、道具的サポートは課題正答率を上昇させるか、また、サポートによってワークロードが軽減されるかを検証することであった。課題には同じく創造的な課題であるタングラムパズルを用いた。覚醒状態 (統制・高覚醒) とサポート (単独・情緒・道具) の 2 要因を設け、課題正答数、NASA-TLX、感情 (肯定的感情、安静、否定的感情)、動機づけを測定した。

結果、正答数は高覚醒条件が統制条件より低かった。主観指標では、WWL・タイムプレッシャー・フラストレーションの項目において、高覚醒条件の方が統制条件より負荷が高かった。努力得点は統制条件の方が高覚醒条件より負荷が高かったが、記述統計量的には情緒条件が統制・高覚醒条件ともに最も低い得点であった。情緒・道具サポートによる課題成績への影響は確認できなかったが、心的努力の面において情緒的サポートが効果的である可能性が示された。

親しい他者の存在が負荷の軽減や課題の促進に強い影響を及ぼすことはなかったが、高覚醒状況下においてもワークロードを軽減し課題を促進する可能性は示唆された。課題の性質やストレスの度合いによっては、親しい他者と一緒にいることで心理的な負荷を軽く感じ、課題をより正確にこなせるようになるであろう。今後は、覚醒の高い状態ではどのようなサポートが有効なのかという視点からの研究が深められることが望ましい。(安全行動学)